

琉球方言を調べる

1.琉球方言とは

上村幸雄氏によれば琉球列島諸方言もしくは琉球語は、日本語と同じ系統の言語で、琉球列島の全般にわたって使われてきた言語である。さらに、互いに大きく異なる多くの方言に分かれ、沖縄諸島と宮古諸島を隔てる海が大きな境界線となって、北グループ(奄美沖縄方言群、あるいは北琉球方言)と南グループ(宮古八重山方言群、南琉球方言)に分かれるという。

奄美沖縄方言群(北グループ)はさらに1喜界島方言 2奄美大島北部方言 3奄美大島南部方言 4徳之島方言 5沖永良部島方言 6与論方言 7沖縄北部方言 8沖縄中南部方言のやっつに下位分類できる。

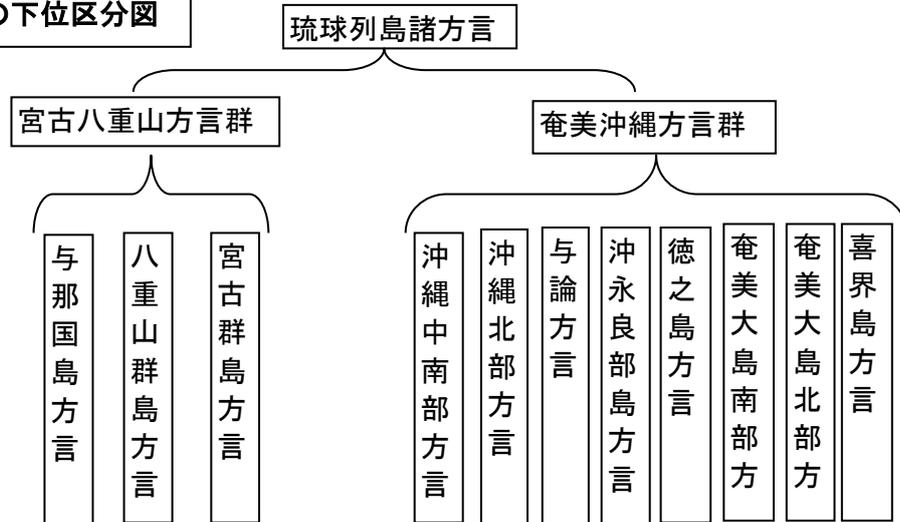
宮古八重山方言群(南方言グループ)は大きく1宮古方言 2八重山方言 3与那国方言のみつに下位分類できる。

(参考文献 上村幸雄「琉球列島の言語(総説)」『言語学大事典セレクション日本列島の言語』1997年三省堂)

琉球方言圏内のそれぞれの方言のちがいについては『沖縄語辞典』の「琉球方言概説 3 琉球方言の下位区分」、『沖縄大百科事典 下』(沖縄タイムス社)の「琉球方言区画」の項も参考になる。

琉球方言のなりたちについては『琉球語彙史の研究』(中本正智/三一書房)、『沖縄大百科事典 下』(沖縄タイムス社)の「琉球方言と周辺諸語」「琉球方言の系統」「琉球方言の歴史」の項も参考になる。

琉球方言の下位区分図



参考文献

「琉球列島の言語(総説)」(『日本列島の言語 言語学大辞典』)
『沖縄語辞典』

2.辞典、語彙集を探す

ほとんどの辞典で方言が見出し語になっている。辞典を引くときには索引があるものは索引から標準語で探す方が探しやすい。表記方法はかな、カタカナ、音声表記が用いられている。

音声表記の読み方がわからない時には『沖縄語辞典』(国立国語研究所編)の一覧表や、『日本列島の言語 言語学大事典セレクション』(三省堂)、『沖縄大百科事典 中』(沖縄タイムス社)の「首里方言の音韻・文法・語彙」の項の表で調べることができる。

○全域

『図説琉球語辞典』(中本正智 編著、力富書房、1981) 【K80/N36】

沖縄全島と奄美諸島の方言語彙の分布図をのせ、各地の発音の特徴の違いがわかりやすく紹介されている。

『琉球語辞典 那覇・首里を中心とする沖縄広域語準拠』
(半田一郎 編著、大学書林、1999) 【K80/H29】

方言から共通語を調べる「琉和辞典」の部と共通語から方言をしらべる「和琉辞典」の部から成り、引例に那覇・首里を除いた地域の言葉を紹介している。

『琉球方言辞典』(中松竹雄 著、那覇出版、1987) 【K80/N35】

奄美大島から八重山諸島までの方言をのせ、首里方言に関しては「基礎語彙の比較的研究(I)」で明治、大正、昭和生まれの話者の語彙をのせ、年代別でのちがい、新語の登場、または使われなくなった言葉がわかる。

○沖縄島および周辺の島々の方言を調べる

『奄美方言分類辞典』(上下巻) (長田 須磨 編、笠間書院、1997) 【K86/O72】

『与論方言辞典』(菊千代 著、武蔵野書院、2002) 【K86/I23】

『いらぶぬくとぅば方言単語集沖永良部島』(永吉敏人 著、トモエ、2005) 【K80/N25】

『伊是名島方言辞典』
(伊是名島方言辞典編集委員会 編、伊是名村教育委員会、2004) 【K81/KI23】

『沖縄今帰仁方言辞典』(仲宗根 政善 編、角川書店、1983) 【K81/N42】

『沖縄伊江島方言辞典』(本文・索引編)
(生塩 睦子 著、伊江村教育委員会、1999) 【K81/O77】

『名護市史本編10 言語やんばるの言語』
(名護市史編さん委員会 編、名護市役所、2006) 【K21/N26】

『いふあくとぅば沖縄県石川市伊波方言集』
(伊波信光 著、石川市教育委員会、1993) 【K82/I76】

『浦添・小湾方言辞典』
(法政大学沖縄文化研究所小湾字誌調査委員会 著、浦添市小湾字誌編集委員会、1995) 【K82/H91】

『西原町史第8巻 資料編西原の言語』
(西原町史編集委員会 編、西原町教育委員会、2010) 【K22/N82】

『沖縄語辞典』(国立国語研究所 編、大蔵省印刷局、1963) 【K80/KO49】

『アラカキクトゥバ』(宜野座嗣郎 著、宜野座嗣郎、1996) 【K83/G46】

『しまくとぅば辞典久米島町字儀間』(波平 憲一郎 著、波平憲一郎、2004) 【K83/N47】

○宮古、八重山諸島の方言を調べる

- 『宮古群島語辞典』（下地 一秋 編、下地米子、1979） 【K84/SH51】
- 『宮古スマフツ辞典』（与那覇 ユヌス 著、城辺町、2003） 【K84/Y82】
- 『沖縄県宮古のことば』（中松 竹雄 著、沖縄言語文化研究所、2006） 【K81/N35】
- 『ニコライ・A・ネフスキー 宮古方言ノート』（上・下）
（平良市教育委員会 編、平良市教育委員会、2005） 【K84/H62】
- 『城辺町スマフツ辞典』（城辺町スマフツ研究会 編、城辺町教育委員会、
2003） 【K84/G96】
- 『石垣方言辞典』
（本文編・文法索引編）（宮城 信勇 著、沖縄タイムス社、2003） 【K85/MI73】
- 『竹富方言辞典』（前新 透 著、南山舎、2011） 【K85/TA66】
- 『与那国ことば辞典』（池間 苗 著、池間苗、1998） 【K85/I33】

3.文法を調べる

- 『沖縄語辞典』（国立国語研究所 編、大蔵省印刷局、1963） 【K80/KO49】
p.58「IV首里方言の文法」
- 『日本列島の言語 言語学大事典セレクション』
（亀井考・河野六郎・千野栄一 編、三省堂、1997） 【K80/N77】
- 「琉球列島の言語(奄美方言)[文法]」須山名保子／「琉球列島の言語(沖縄北部方言)[文法]」島袋幸子／「琉球列島の言語(沖縄南部方言)[文法]」津覇古敏子／「琉球列島の言語(宮古方言)[文法]」狩俣繁久／「琉球列島の言語(八重山方言)[文法]」狩俣繁久／「琉球列島の言語(与那国方言)[文法]」高橋俊三
- 『沖縄大百科事典 中巻』
（沖縄大百科事典刊行事務局 編、沖縄タイムス社、1983） 【K03/O52】
- 「首里方言の音韻・文法・語彙」上村幸雄・津覇古敏子
- 『沖縄大百科事典 下巻』
（沖縄大百科事典刊行事務局 編、沖縄タイムス社、1983） 【K03/O52】
- 「琉球方言の助詞・助動詞」野原三義／「琉球方言の代名詞」中本正智／「琉球方言の動詞」野原三義

4.インターネット情報

琉球語音声データベース

<http://ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp/>

『今帰仁方言辞典』、『沖縄語辞典』、『奄美方言分類辞典』の辞典に載っている語彙と編纂委員が所有している調査資料をもとにした宮古方言の語彙が音声で収録されている。